



アーサー・レクティアー Arthur Lechte

豊橋市国際交流員

Toyohashi City Coordinator for International Relations

アーサー・レクティアーさんのコラムの英文をみたい方は、豊橋市国際交流協会のホームページ(<http://www.toyohashi-tia.or.jp>)をご覧ください。

第2回 英語と標準語

他の国と比べても、日本語は数多くの方言が存在する言語で、日本に来た外国人が最初に気づくことといえばこれかもしれません。母国の学校で日本語を一生懸命勉強したはずが、日本の各地域で、方言という壁を前にして全くコミュニケーションが成立しないというのは決して希なケースではないでしょう。

世界で日本語を第一言語として使われているのは日本しかない反面、英語を母国語とする国は世界で20ヶ国ほどといわれています。この為、英語は国ごとに独特な言い回しやイントネーションや言葉などが生まれても、そう不思議ではありません。私にとって日本の一番興味深いところは、日本という小さな島国のなかでいくつもの方言があって、しかも、地域ごとのバリエーションを含めると100種類以上もあることです。

ここまでいろんな喋り方があると、やはり日本人同士ですらコミュニケーションが成立しない時もあると聞きました。じゃあ、外国人には尚更無理じゃないか(笑)などと思ってしまいましたが、だからこそ日本には「標準語」というのがあって、標準語を習う必要があるんだな、と納得しました。重要な場面で、共通の喋り

方を設定することでコミュニケーションを円満に行っているのです。

では、英語の「標準語」とは何なのか。日本で「標準語」を使う場面といえば、ビ



ジネスの交渉などの重要な場面ですが、たとえば、英語を母国語とする国々の企業の代表者が集まったらどの「方言」を「標準語」とするのか。実は、英語という言語には特に「標準語」という概念はありません。コミュニケーションに支障をもたらすほどのアクセントは無い為、標準語がある必要がないからです。いろんなアクセントが存在し、それにほとんどの人は慣れていますが、「堅い表現の英語」というのはあります。これは、論文や外交の場などで使われる文型で、これが日本で言う「標準語」に近いと思います。これは論文や外交の場で使われていて、英語を第二言語として教える際に、この「堅い英語」が使われています。ただ、日本の「標準語」と違う最大のポイントは、この堅い英語はあくまで文型なので、発音は各国々によってバラバラで、正式な「標準英語」というのは存在しないことです。

現在日本では、アメリカ英語が標準語だと認識している人が多いと感じました。英語教師をしているイギリス出身の友人は、授業中、日本人の英語教師からアメリカ風の発音を教えるように指示を受けるケースもたまにあると聞きます。彼が言うには、アメリカは代表的な移民国ということもあり、アメリカの各地域ではいろいろなアクセントの「アメリカ英語」が使われているのだから、「アメリカ英語」の発音にこだわるのはどうなのか。「グローバルな人材の育成」を目標とするならば、まず、どの国の英語が「正しい」か「間違い」かではなく、様々な形の英語が存在すること、どれを使ってもコミュニケーションは問題なく成立するというを知ってもらいたい、とのことでした。

こういったこだわりを捨てることで、英語教育での「不正解」を減らして「正解」を増やせば、もっと気軽に英語を喋れるようになるのではないのでしょうか。

エフエム豊橋・ポルトガル語講座、放送中!!

・はなそうポルトガス
毎週火曜 12:45~
土曜 12:30~(再放送)

FM 84.3MHz

株式会社 エフエム豊橋
JOZZ 6AA-FM84.3MHz FM TOYOHASHI INC.
[URL] www.843fm.co.jp



うまいもんや
鯛松

Umaimonya TAIMATSU

日替り、松花堂ランチ 700円



〒440-0888 豊橋市駅前大通2-33-1 開発ビルB1F
☎0532-52-8601 <http://www.taimatsu.jp>
営業時間/11:30~13:45(平日のみ)
17:00~22:30(L.O.21:00)
定休日/日曜・祝日